

令和6年度
「町民と議員との懇談会」

【実施報告書】

令和7年2月

～分かりやすく町民が参加する議会～

福島町議会

令和6年度「町民と議員との懇談会」

- 1 「町民と議員との懇談会」説明資料について
令和7年2月1日発行 議会だより第145号
- 2 班体制について

班編成	議 員 (◎は班長)	事務局
A班	◎ 平沼 昌平、木村 隆・熊野 茂夫	鍋谷 浩行
B班	◎ 藤山 大、小鹿 昭義、平野 隆雄	山下 貴義
C班	◎ 佐藤 孝男、杉村 志朗、溝部 幸基	角谷 里紗、熊谷 治子

※2月7日の班体制

緑 町 ◎ 藤山 大、小鹿昭義、平野 隆雄、木村 隆、熊野 茂夫
 新栄町 ◎ 佐藤 孝男、杉村 志朗、溝部 幸基、平沼 昌平

日 時	町内会	会 場	担当議員
2/3 (月) 午後6時～	松浦、吉野	松浦・吉野町内会館	A
	吉田町、館古	役場 (機能回復室)	B
	豊浜、宮歌	宮歌・豊浜町内会館	C
2/4 (火) 午後6時～	吉岡1・2、吉岡3	吉岡総合センター	A
	白符	白符町内会館	B
	上町、本町、川原町	役場 (機能回復室)	C
2/5 (水) 午後6時～	日向1、日向2、日向3	日向町内会館	A
	館崎1、館崎2・3	吉岡総合センター	B
	月崎1	月崎1町内会館	C
2/6 (木) 午後6時～	月崎2	月崎2町内会館	A
	丸山団地	丸山コミュニティセンター	B
	塩釜、浦和、岩部	塩釜町内会館	C
2/7 (金) 午後6時～	緑町	福祉センター	A・B
	新栄町	新栄町集会所	A・C
2/10 (月) 午後6時～	三岳1	三岳1町内会館	A
	三岳2	三岳2町内会館	B
	千軒	千軒活性化センター	C

1. 参加状況等

今年度の懇談会は、2月3日（月）から2月10日（月）までの**6日間開催**され、17会場で延べ77人（男59人、女18人）が出席しました。出席者数の最多は9人、最少は1人、平均4.5人という参加状況となりました。

参加者数は前年度比22名の減、参加者数1～2名の会場が5か所など、全体的に減少傾向にあります。

2. 開催概要

議会では、議会基本条例第7条第8項の規定に基づき、町民への説明責任を果たし、情報を共有するため「町民と議員との懇談会」を開催しております。

「町民と議員との懇談会」は、全町内会（17会場）を対象に、議員が3班に分かれ開催しており、平成24年度から今回で13回目の開催となりました。

今回の懇談会は、説明資料として「議会だより第145号」と議会だよりの「議員のなり手不足」**特集**ページをまとめたものを用い、定例会、常任委員会で審議した内容のほか、多岐にわたる分野で意見交換を実施し、参加した町民と情報共有を図ることができました。

3. 意見等の総括

各会場での意見を分類し、その件数と総括を、次のとおり整理しました。

全体 17会場（259件）

今回の懇談会では、「議員のなり手不足や議会改革」について、町民の皆様から直接ご意見を伺うことも**課題**として開催し、**多くの貴重なご意見をいただく**事ができました。

「**高校存続**」「**人口減少**」「**町内会運営**」「**防災対策**」など、多岐にわたる意見も寄せられました。これらの課題は、町の将来に関わる重要なものであり、引き続き議論を重ねていく必要が**ありますので**、**町民の声**を活かし、一般質問や予算審議、所管事務調査などを通じて具体的な政策提言へとつなげてまいります。

一方で、懇談会の参加者数は昨年と比べ減少しており、今後の改善策として、「開催時期や参加しやすい環境づくり」等参加してもらうための工夫を求める意見が多く寄せられましたので、検討が必要と考えております。

「町民と議員との懇談会」は、町民と直接意見を交わす貴重な場として、今後も継続していくことが重要であり、町民の率直な声を受け、今後の議会のあり方につ

いても議論を深めていく必要性を再認識しました。

町民と議会がともにまちづくりを進めるために、今後も対話の機会を大切にし、より多くの町民が参加しやすい環境づくりを検討しながら、議会としての役割を果たしてまいります。

議会 16会場（107件）

議員のなり手不足、議会改革、議員定数の適正規模、議員歳費など、議会の在り方に関する意見が多数寄せられました。

特に、議員のなり手不足については、「漁師や農家などの一次産業従事者が議員を務めるのは難しい」「自営業者でないと議員活動との両立が厳しい」「報酬の問題ではなく、仕事が忙しくてできない」といった意見や「若い人や女性議員がいないのはなぜか」との声もあり、クォーター制の導入など、多様な人材が議会に参加できる仕組みの必要性が指摘され、議会として、モニター制度の導入や、町民に議会活動をより身近に感じてもらうための取り組みを検討していく必要があります。

議会改革に関する意見では、「議会の会議が多すぎて若い人が参画しづらい」「今の議会の体制では若者や女性の立候補は難しい」といった意見がありました。特に、議会の活動日数の多さや、専門的な働き方が求められることが、議員のなり手不足につながっているとの指摘もあり、議会としては、他自治体の事例を参考にしながら、議会の在り方や活動負担を見直し、改革を進めていく必要があります。

議員定数の適正規模については、「人口減少に合わせて定数を減らすべき」「定数を減らすと議会活動が維持できなくなる」「定数を減らすことでさらに若者が立候補しにくくなる」といった賛否両論の意見が出されました。議会としては、単に人口減少に応じて定数を減らすのではなく、町の実情に合った適正な規模を見極める議論をさらに進めてまいります。

「町政懇談会と議会懇談会の違いがわからない」「行政と議会の役割の違いが明確でない」といった声もあり、議会としても、町民に対して議会の役割や機能をより分かりやすく伝える努力が求められておりますし、懇談会の開催時期に関する意見、「悪天候の時期に実施するのはいかがなものか」「町政懇談会と議会懇談会を分ける必要があるのか」といった疑問も寄せられ、今後、より多くの町民が参加しやすい形を模索していく必要があります。今回の懇談会で出された意見を踏まえ、なり手不足の解消、議会改革の推進、定数や歳費の見直し、議会活動の透明性向上などについて、引き続き検討を進めてまいります。

町政 4会場（12件）

町政に関して人口減少や財政運営、行政の支援策など幅広い意見が寄せられました。特に人口減少の影響を懸念する声が多く、「福島町は将来的に単独で運営を続けられるのか」「どこまで町民を支援していけるのか」といった質問があり、議員から「町の財政状況に関しては、国の交付税に依存しているため単独での判断が難しいものの、現在は比較的安定している」との説明を行いました。

一方で、「支援金の配布が多すぎて、住民がもらい慣れてしまっているのではないか」「財政運営に悪影響が出ないか」といった懸念の声や「福島町は他の自治体よりも給付金や支援策を早く実施しているが、早すぎるのではないか」との指摘があり、子育て支援策の早期導入が評価されている一方で、他町と比較し「福島町は支援を受けられないのか」と、実施時期のズレにより誤解が生じることが指摘されました。

「人口が減っても役場や議会の仕事が減るわけではなく、むしろ国の指示に対応するために業務が増えているのではないか」との指摘もあり、行政の業務負担増についても関心が寄せられました。

町政の根幹に関わる人口減少や財政運営については、今後も行政と連携しながら持続可能な地域づくりを進めていくことが重要です。特に人口減少対策については、単なる出生率向上の施策だけでなく、転入促進策や定住支援策など、多角的なアプローチが求められますし、行政サービスの持続可能性を確保するために、財政運営の見直しや支援策の効果的な活用について議論を深める必要もあります。

支援金の配布についても、住民の意識や財政への影響を踏まえ、慎重に制度設計を進めることが求められますので、議会としては、町の施策の方向性を注視しながら、適切な財政管理が行われるよう監視を続けてまいりますし、役場職員の減少に伴う行政の業務負担の増加についても、職員の働き方の見直しやデジタル化の活用など、負担を軽減できる方策についても議論してまいります。

教育 10会場（48件）

教育に関しては、福島商業高校の存続に関する意見が多数を占めました。「全国から生徒が来ているのは良いことだが、今後、生徒が集まらなくなったらどうするのか」「町外の生徒ばかり支援するのではなく、町内の子どもへの支援も考えるべきではないか」といった指摘がありましたし、高校生のアルバイト先が少ないこと、卒業後に地元に残る仕組みが必要との雇用に関する意見も寄せられました。

一方で、全国募集で入学した生徒が地域のお祭りや昆布のアルバイトに参加していることについては、「地域の活性化につながる」「町民との交流が生まれて良い」

と好意的な意見が多数寄せられました**が**、「**高校**の寮の建設に多額の費用がかかっているが、費用対効果はどうか」との意見も出されました。

町内の子どもへの支援については、**町外**の**生徒**とのバランスを考慮した支援策について議論してまいります。高校生の雇用創出については、地元企業との連携を強化し、働く場を確保する方策について議論を進めます。

高校寮の運営や費用対効果については、確かに多額の費用を要していますが、議会としては高校の存続が町に与える経済的・社会的な影響を考慮すると、その投資の価値は十分にあると考えています。高校がなくなることによる地域への損失は大きく、長期的な視点で高校存続に向けた施策を進めていくことが必要だと認識しており、**町の将来に関わる極めて重要な課題であり、議会としても行政と連携しながら積極的に支援策を議論してまいります。**

吉岡小学校の存続についても意見があり、少人数での教育の良さを評価する意見と、統廃合すべきではないかという意見が分かれてきましたが、地域の声を尊重しつつ、児童数の推移を注視しながら適切な判断が為されるよう議論を進めてまいります。

産業観光 5会場（20件）

観光振興や産業活性化に関する意見も**多く**寄せられました。特に、企業誘致について「近年進んでいないのではないか」との懸念が示され、日向地区への積極的な企業誘致を求める声や、「**福島町**の弱点は宿泊施設の不足である」との指摘もあり、公営住宅の一部を宿泊施設として活用することなどが提案されました**が**、**公営住宅の利用については、制度上の制約があるため、慎重な議論が必要となってきます。**

岩部地区の観光振興に関する意見も多く、**岩部クルーズ**については「リピート客がいる」「全国規模のテレビで紹介されるなど認知度が上がっている」という評価がある一方で、「**岩部クルーズの運行時間が早すぎるため、函館泊の観光客が利用しづらい**」などの意見もあり、**船の大型化や荒天時の運行対応についての課題も指摘されました。**今後、**岩部地区の観光資源を生かした地域活性化策が求められており、展望公園の整備など具体的な計画を進め、岩部クルーズの運行時間の見直しや増便など、課題が山積しているため、現状の維持と改善策について議論してまいります。**

有害鳥獣対策については、特に熊の問題が深刻化しており、「**2年前の熊による人身被害のクマは見つかったのか？**」「**熊の数が増えているが、どう対処するのか？**」「**春熊駆除を再開すべきではないか？**」といった意見が出ました。特に、「**町に降りてくる熊が増えている**」「**昆布加工場にも熊が出没している**」との具体的な報告もあり、**人身被害を防ぐための対策強化が求められています。**

議会としても、熊や鹿の捕獲目標の見直しや、地域ごとの防除策の強化に向けた方策について議論してまいります。

企業誘致に関しては、福島町の地理的・経済的条件の制約もあり、誘致活動の成果が出にくい状況となっていますが、今後も可能性を探りながら、町の産業基盤を強化する方向性について継続的に議論を進めてまいります。

住宅定住 5会場（12件）

定住促進住宅や移住施策に関して多くの意見が寄せられました。特に、定住促進住宅の入居条件や建設計画についての疑問や要望が目立ちました。「定住促進住宅は入居者が決まっている状態で建てられているのか？」といった質問がありましたが、議員からは「事前のアンケート調査を行い、需要を確認した上で進めている」との説明がなされました。定住促進住宅と町営住宅の違いについての理解が十分に広まっていないことも伺えました。「定住促進住宅を整備していくなら、町営住宅の数を減らしてもよいのでは？」という意見もありましたが、議員から「対象者が異なり、役割を考慮する必要がある」と説明しました。「町外からこれだけの生徒が集まっているので、その親も福島町に移住できるような仕組みを検討すべき」との提案もあり、移住促進策の強化を求める声も挙がりましたが、建設コストが高額であることや、入居対象を子育て世帯に限定することに対して、「人口減少を考えると条件を緩和すべきでは」との意見も寄せられました。

移住政策についても、「現在の施策では移住者が増えず、定住施策に偏っているのではないか？」「移住となると生活基盤がないため、年金暮らしの人が多くなるのでは？」との指摘があり、議員からは、行政として、まずは町外への流出を防ぐことを優先しており、移住者については公営住宅の活用など柔軟な対応を検討しているとの説明がなされました。

空き家対策についても、「空き家を修繕して提供する考えは？」との意見があり、議員から「周辺への影響を考え、解体を基本方針としているが、空き家バンクなどを通じた活用も試みている」との説明がありました。現状では申し込みが少ないため、今後の運用について改善の余地があると考えられます。

町営住宅や公営住宅の活用を含め、定住と移住の施策がより効果的に機能するよう、今後も議論を深めてまいります。空き家対策についても、活用可能な物件を増やし、町の魅力向上につながる施策を提言してまいります。

福祉 5会場（16件）

福祉に関するさまざまな意見が寄せられました。特に、高齢者支援や医療、見守り活動に関する課題が多く挙げられました。高齢化が進む中で、「介護タクシーをもっと充実させてほしい」「病院に行きたくても行けない高齢者が多い」といった移動支援に関する要望が出されました。福祉灯油の支給額についても「物価高騰の中で、増額を検討してほしい」との意見がありました。

医療面では、町立診療所に関する意見が目立ちました。「利用者数が増えないのはなぜか」「診療所の評判が良くないとの声もあるが、どう改善するのか」との意見があった一方、「先生方が丁寧に対応している」「頼れる医療機関として大切に」といった肯定的な意見も聞かれました。議会としては、診療所が地域の医療機関として円滑に機能するよう、引き続き調査を行い、必要な改善点を議論してまいります。

高齢者の見守り活動に関しても関心が高く、「見守り隊のような仕組みを町内会で広げるべき」「一人暮らしの高齢者の安否確認が課題」といった声が寄せられました。議会としても、地域での支え合いが重要であると認識しており、高齢者や福祉制度の狭間にいる人々の声に耳を傾け、住民が安心して暮らせる町づくりを行政と連携しながら、より効果的な支援のあり方について議論してまいります。

防災 4会場（12件）

防災対策に関する幅広い意見が寄せられました。特に、避難場所の利便性向上に関する意見が多く、「神社が避難場所となっているが、高齢者には登るのがきつい」「津波避難について、防波堤がない日向地区ではどう対応すべきか」など地域ごとの課題についての声や、「釧路で見た防災タワーのように、スロープを設けた避難施設が必要ではないか」との具体的な提案もありました。

避難施設の整備に関しては、「メモリアルパークの避難施設にプレハブが必要」「駐車場が狭すぎる」といった具体的な指摘もあり、より実用的な防災施設の充実が求められています。「漁村センターの解体が進んでいないが、改修して防災施設として活用できないか」といった提案もありました。

役場から自力で避難できない人のリストを町内会に頂いているが、誰がどの人を担当するかなどが決まっていないとの意見もあり、個別の支援体制の整備や「町内会ごとに二次避難場所を設けるべき」との意見もあり、町民の防災意識が高まっていることが伺えます。議会としても、防災対策は重要な課題と認識しており、町内会を通じた意見収集を進めながら、必要な施策について議論してまいります。

環境・インフラ 3会場（7件）

ゴミ処理、道路や海岸工事など、多岐にわたる意見が寄せられました。特に、ゴミ処理については「福島町のゴミ処理費用が近隣町と比べて高い」「町では電動ゴミ処理機への補助を行っているが、議員や担当職員が実際に使用していないため、説得力に欠ける」といった指摘がありました。町内に販売店がないことも課題として挙げられ、町民に対する PR の方法やゴミ減量化への取り組みについて議論が求められました。

インフラ整備に関しては、「海岸工事の進捗」「道路工事の優先度」などに関する意見がありました。海岸工事については、昆布漁への配慮から作業期間が制約されることや、道路工事の優先度が他地域の緊急度によって変わる点などに理解を示しつつも、より円滑な進行を求める声もありました。

議会としては、ゴミ処理に関して、町内での啓発活動の充実や、実際に機械を使用した上での PR 方法を検討していく必要があると認識しています。インフラ整備については、国や道の対応が必要な案件が多いため、行政と協力しながら住民の不安を解消できるよう努めてまいります。特に、岩部までの道路については、岩部地区が無居住となったことにより、国・道の対応が懸念されるため、町の将来像を見据えた適切な対応が求められています。

町内会 7会場（12件）

町内会に関しては、「運営の担い手不足」「役割の変化」「地域活動の停滞」という大きく三つの課題が挙げられました。

運営の担い手不足 については、「町内会の役員のなり手がいない」「若い人が協力してくれない」「総会の参加者も少なく固定化している」との意見が寄せられました。人口減少や高齢化の進行により、町内会の維持が困難になっている状況が浮き彫りになりました。**役場**の業務が拡大する中で、町内会の役割が以前よりも縮小しているとの意見もありました。

町内会の役割の変化 については、「町内会を通じて行っていた役場からの配布物が、委託に切り替わったことで町内会を経由しなくなった」「町内会を頼らない方向に変わってきているが、結果的に町内会に依頼が戻ってくる」といった意見が出され、行政との関係性のあり方が課題として挙げられました。

地域活動の停滞 については、「町内会の行事が減少し、コミュニティづくりが難しくなっている」「老人クラブの加入率が低く、男性は特に消極的」といった声や、

「植えた花が盗まれる」「会館の前の舗装工事が進んでいない」といった環境整備に関する問題も指摘されました。

町内会の運営課題については、町内会連合会とも協力しながら、町内会の役割や支援のあり方について検討を進めていく必要があります。特に、担い手不足の解決策や行政との連携の見直し については、実態を把握しながら柔軟に対応することが求められます。

地域活動の停滞については、町内会の機能を維持しつつ、時代に合った役割に適応し、町民が参加しやすい仕組みやイベントの在り方を再検討し、地域の活性化につなげる施策を考えることが求められます。特に、若年層が町内会活動に関心を持てるような仕掛けをつくることも重要な課題と考えます。

その他 5会場（13件）

伝統文化の継承については、指導者によってやり方が異なり、長年関わってきた住民と教育機関との認識に違いがあることも見受けられ、正しく伝えられていないのではないかという声がありました。今後、関係者間の連携を深め、適切な技術の継承が図られるよう検討が必要と考えます。

広報のあり方についても意見が出されました。議会だよりだけでなく町の広報全般に対して、よりわかりやすく充実させるべきとの声がありました。議会としても、住民に必要な情報が伝わるよう工夫を重ね、引き続き広報の充実に向けた取り組みを進めてまいります。

除雪に関する課題も挙げられました。堆雪場の確保や業者との調整について住民の負担が大きいとの指摘がありました。町が主導して適切な対策を講じることが求められており、議会としても状況を把握し、改善に向けた働きかけを行っていく必要があります。

パークゴルフ場の管理に関して、水道代の制約が芝の維持に影響を及ぼしているとの懸念も示されました。議会としても現地の状況を確認し、適切な対応が取られるよう提言してまいります。

4. 地区別懇談会の開催状況

全17会場の地区別参加者数は下記の通り。

なお、次ページ以降は各会場別の懇談会報告書を掲載しております。

開催日	対象地区	会場	参加者数	男性	女性
2/3 (月)	松浦、吉野	松浦・吉野町内会館	6	5	1
	吉田町、館古	役場（機能回復室）	3	3	0
	豊浜、宮歌	宮歌・豊浜町内会館	9	9	0
2/4 (火)	吉岡1・2、吉岡3	吉岡総合センター	8	6	2
	白符	白符町内会館	8	6	2
	上町、本町、川原町	役場（機能回復室）	2	2	0
2/5 (水)	日向1、日向2、日向3	日向町内会館	3	3	0
	館崎1、館崎2・3	吉岡総合センター	3	3	0
	月崎1	月崎1町内会館	5	2	3
2/6 (木)	月崎2	月崎2町内会館	7	4	3
	丸山団地	丸山コミュニティセンター	2	2	0
	塩釜、浦和、岩部	塩釜町内会館	2	2	0
2/7 (金)	緑町	福祉センター	1	1	0
	新栄町	新栄町集会所	4	3	1
2/10 (月)	三岳1	三岳1町内会館	4	3	1
	三岳2	三岳2町内会館	1	1	0
	千軒	千軒活性化センター	9	4	5
計			77	59	18